

関谷定夫牧師を迎えて 1954

はじめに

明治時代に仙台に神学校が存在していたことは、皆様ご存じのことでしょう。1886年（明治19）5月にスタートした私塾「仙台神学校」です。この仙台神学校が東北学院のルーツです。押川方義¹とアメリカ・ドイツ改革派宣教師 W.E.ホーイ²の手によるもので、6名の伝道者志望の若者が、木町通と北六番丁角の借家で神学の学びに励み、その後1891年（明治24）には「東北学院神学部」と改称、51年間の働きの中で多くの伝道者を生み出しました。しかし、1937年（昭和12）に神学部は廃止され、東京の日本神学校と合同することになります。教育環境・教育内容の充実という利点はありましたが、合同の背景には外国伝道局や学院側の財政的な事情やその他の理由があったのでしょう³。

戦後しばらくたってから、旧神学部の後身として東北学院大学文学部基督教学科が開設されました。1964年（昭和39）のことです。この基督教学科には仙台地区のバプテスト教会も恩恵を被りました。複数のバプテスト派の青年がこの学科に進学する道を選び、さらにその中から何名かの献身者も生み出されたからです。

1. 戦後のバプテスト神学校の変遷

バプテスト教会に仕える牧師が生み出されるためには、神の選びが大前提であることは言うまでもありませんが、本人の召命観と献身の決意、そしてバプテストの信仰に立った神学教育機関も不可欠です。バプテストの先人たちは時の流れの中で苦勞と工夫を重ねながら、神学教育機関を維持、発展させてきました。そのお陰もあって、仙台教会に二代目の牧師が与えられることになります。そのことに触れる前に、第二次世界大戦前後のバプテストの神学校の変遷を概観しておきます。

1941年（昭和16）、日本国内のプロテスタント諸教派の教会は、宗教団体法のもと一つの教団（日本基督教団）として合同する道を選びました。それに伴いバプテストの教派神学校であった日本バプテスト神学校は、翌年3月に閉鎖されます。戦後、1946年（昭和21）に西南聖書神学校の生徒募集が開始され、バプテストの伝統に立つ神学生の育成が再開されます。そして翌年には西南学院専門学校に神学科が

開設され、1949年（昭和24）にその神学科は、西南学院大学学芸学部神学専攻となり、その後何回かの変遷を経て現在の西南学院大学神学部に至ります。

2. 関谷定夫牧師の仙台教会での働きと生活と苦労

関谷定夫牧師⁴は1949年（昭和24）に旧制熊本医科大学卒業後献身し、西南学院大学で神学を学び1952年（昭和27）に卒業します。大学で助手をしながら福岡教会の牧師を兼務し、学問研究と伝道・牧会に情熱を注いでいましたが、心機一転、双方とも辞し、開拓伝道を担うために1954年（昭和29）6月2日（水）に仙台バプテスト伝道所に着任⁵、グラント宣教師と共に伝道・牧会の働きを担うこととなります。

最初の住まいは北鍛冶町の長屋の一室で、トイレは畑の中の掘建て小屋で随分と不自由な生活を送りました。新妻である玲子さんのご苦労がしのばれます。その後、新会堂ができてからはバプテストリー裏の六畳一間が居間兼寝室、またバプテストリーの更衣室が牧師室となります。やがて堤通に土地付きの建物を購入⁶し牧師館としましたが、それは関谷牧師の退任が迫った時期でした。また、その物件はかなり年代物で水道もない有様です。毎朝、近くの教会員⁷のお宅へ水をもらいにバケツ片手に何回も往復しなければならない始末です。

話を戻しますが、赴任して数日後の6月6日（日）はペンテコステで、関谷牧師が早速礼拝説教を担当されました⁸。当時の礼拝は4月から始まったばかりの幼稚園の仮園舎を使用し行われており、常に20名ほどが出席していました。青年会長の大西康雄さん、バプテスマを受けたばかりの大槻國彦さん、婦人会長の莊子聡子さん、会計の中目源太郎さんなど、群れの中心メンバーたちは、将来の教会組織に向け希望に燃えて信仰生活を送っていました⁹。

関谷牧師は着任1年後の1955年（昭和30）7月¹⁰に按手礼を受けます。そして同月10日（日）に関谷牧師司式による最初のバプテスマが行われ、大學かへでさん（旧姓飯倉）が受浸しました。その他現在会員では、藤澤雅子さん（旧姓太田）、渡邊慶子さん（旧姓斉藤）、藤澤良和さん、渡邊真人さんたちのバプテスマも、関谷牧師の司式です。また、教会組織1カ月後に行われた仙台教会第一号の結婚式（中目源太郎さんと成子さん）も関谷牧師が司式をされました¹¹。

なおこの年はグラント師の1年間の休暇帰国の年でしたので、関谷牧師のご苦労

は想像に余りあります。特に幼稚園の運営に関しては、ほぼグラント宣教師夫妻による経営でしたので、資金が底をつき幼稚園の先生方への給与の支払いも保育料だけではどうにも賄えず、大変困ったこともあったようです¹²。

このように仙台教会の開拓時代を担ってくださった関谷定夫牧師夫妻は、それこそ身を切るようなご苦勞を重ねながら、託された使命を果たすべく働きにまい進されました。感謝にたえません。但しその結果、お二人とも健康を害することになってしまいます¹³。今更ながら申し訳なく思います。

教会組織とその後のケアを成し遂げ、関谷牧師は 1957 年（昭和 32）3 月に退任し、再び学究の道を歩まれ、やがて日本の旧約聖書学や聖書考古学の分野で、大きな業績を残し、40 年近くにわたり西南学院大学において神学生の育成のために尽力されました。（文責：小林孝男）



敬愛する天野有さん（故人 1955～2018 年、写真）は、天野五郎牧師時代の仙台教会で少年・青年時代を過ごしました。早稲田大学卒業後、西南学院大学神学部での学びを経て奈良教会牧師に就任。その後、カール・バルト神学の研究者として歩み、ヴッパータール神学大学で神学博士号を取得。1994 年より西南学院大学神学部の講師、助教授（1996 年）、教授（2002 年）として神学研究及び神学生の指導にあたります。

天野有さんにとって関谷定夫先生は、西南学院における「恩師」であり、「同僚」であり、同時に両者とも仙台教会をこよなく愛した点において、信仰の「仲間」でした。

¹ 1850～1928年。松山藩士橋本家に生まれ、その後押川家の養子となる。横浜英学校でキリスト教に触れ受洗、日本最初のプロテスタント教会である日本基督公会を組織。東北学院初代院長。院長辞任後も東北学院顧問として終生かかわりを持つ。東北学院三校祖の一人(東北学院ホームページ等を参照)

² 1858～1927年。アメリカ・ドイツ改革派教会宣教師。米国ランカスター神学校卒。1885年に来日し押川らと共に仙台神学校、宮城女学校(宮城学院)を創立。1892年東北学院副院長に就任。東北学院三校祖の一人(同上)

³ 東北学院百年史編集委員会『東北学院百年史』(学校法人東北学院、1989年) 834～845頁

⁴ 資料(1995/03/26_献堂四十周年記念誌) 5～6頁、「仙台教会草創時代の思い出」と題した関谷師の文章が掲載されている。1925/12/26 生まれ、1949/6/9 受浸、2017/6/11 召天

⁵ 資料(1955/03/25_仙台バプテスト伝道所沿革と教会員名簿)

⁶ 資料(1995/03/26_献堂四十周年記念誌) 6頁、1957年の冬に購入

⁷ 同上 6頁、資料(1955/03/25_仙台バプテスト伝道所沿革と教会員名簿)、この教会員は本宮絢子さん

⁸ 同上 5頁、説教題は「聖霊の威力とキリスト教会の起源」

⁹ 同上 5頁

なお、資料(1955/03/25_仙台バプテスト伝道所沿革と教会員名簿)には、教会組織時の役員が次のように記録されている。会計:大西康雄、書記:柊沢信、庶務:中目源太郎、行事委員:江原梅子、奉仕委員:大槻國彦、教会学校長:大西康雄、幼稚園長:ミセス・グラント、婦人会長:莊子聡子、青年会長:斎藤良樹

¹⁰ 「仙台バプテスト伝道所沿革」(1955)には、「関谷牧師按手礼 7月1日」とメモされているが、この日は金曜日である。夜に式を行ったのだろうか?残念ながら確認の術はない。ただ、勝手な想像を二つ述べれば、①「10日」を「1日」と誤記。10日(日)に礼拝の中で按手礼が行われ、同じ礼拝の中で関谷牧師司式による最初のバプテスマが執行された。②「7月第1主日(3日)」を「1日」と誤記してしまった可能性も考えられる。①②とも、平日夜に按手礼を行ったと考えるより自然であろう。

¹¹ 『60年のあゆみ』45頁、結婚式は1955年4月24日(日)

¹² 資料(1995/03/26_献堂四十周年記念誌) 6頁

¹³ 同上 6頁、「たしかに開拓伝道はつらいことが多くありました。特に妻は、急激な生活の変化、慣れない土地と仕事のために心身ともに健康を害し、死産と流産を繰り返し、その度に入院しなければなりません。小生も無理がたたって盲目寸前まで目を患い、福岡に移ってから十年以上通院してやっと視力が回復しました。」